

[様式 9 - 1]

福祉サービス等第三者評価結果

総合評価

受診施設名	京都市西京極児童館	施設種別	児童館
評価機関名	特定非営利活動法人 きょうと福祉ネットワーク「一期一会」		

平成27年10月20日

総 評	<p>京都市西京極児童館は、阪急西京極駅前徒歩1分の公団2階に、昭和50（1975）年7月1日に開設されました。西京区で最初に開設された児童館であり、1980年代から乳幼児及び保護者や中高生が気軽に来館できる児童館を目指して運営され40周年を迎えました。当初は、地域の関係団体を中心に構成される運営委員会が運営主体の児童館でしたが、平成23年4月より社会福祉法人京都保育センターが指定管理者となり運営されています。</p> <p>平成27年4月時点の学童保育の登録人数は79名で、その他の自由来館児童にも毎日多く利用されています。特に「自由来館児童の数を減らさない取組みの実践」に力を入れ、小学校を卒業してからも、中・高生が来館し、職員と気軽に話をする様子には感心いたしました。</p> <p>学童クラブの他に、0歳～18歳までの児童及び保護者が利用できる取組として、乳児クラブ「さくらんぼ」や幼児クラブ「親子の広場」、小学生対象の「あそびクラブ」「卓球クラブ」「エコクラブ」「手話クラブ」「将棋教室」、中高生対象の「映画を観よう会」等を実施しています。年間行事として「ハイキング」「けんだま道場」「キャンプ」「おばけやしき」「竹馬運動会」「クリスマス会」「駄菓子屋さん」「おやつ作り教室」等を企画して、全ての児童に健全な遊び場を与え、その健康増進を支援しています。館内の限られたスペースを工夫しながら活用し、様々な遊びや企画を考えて、障害のある児童も含めた数多くの児童を受入れていることは大変評価できます。また、年間延べ人数約600名のボランティアを受入れ、民生児童委員協議会や女性の会等の地域の関係団体からも支援されていることは、地域に根差した児童館の証であると感じました。職員は京都市児童館学童連盟が提供する研修に積極的に参加して専門性を養われています。</p> <p>その反面、実習生やボランティア受入れ等の各種マニュアル整備・見直し、サービスの質の確保等には課題が感じられました。</p> <p>また、標準的な支援方法や事業内容を職員間で話し合い、サービス提供されていましたが、業務マニュアル等の文書化が不十分でした。業務や行事企画等の手順を洗い出し、マニュアル策定されてはいかがでしょうか。サービスの質の標準化に繋がると考えます。</p> <p>児童館は、昨今の子どもをめぐる状況の中で様々なニーズへの対応が求められています。今後は、これまで積み上げてこられた活動を大切にしつつ、個々の家庭や地域を意識しながら子どもの生活を支援する拠点として発展していかれることを期待します。</p>
-----	--

<p>特に良かった点 (※)</p>	<p>II-4-(3) 地域の福祉向上のための取り組みを行っている。 乳幼児の保護者に対して、子育てに関する悩みやニーズの調査をアンケートで実施しており、その意見を基に子育て講演会、おもちゃ病院、園芸教室等を実施されています。また、児童館事業を「子どもの育成機能」「子育て支援機能」「地域福祉促進機能」に分類し、それぞれの機能に沿った活動を毎月実施されています。地域のニーズについては、来館された保護者からの意見や相談内容でニーズを把握するとともに社会福祉協議会や学校・保育園・老人クラブ等関係機関との会議の中で把握しています。</p> <p>III-1-(2) 利用者満足の上向上に努めている。 保護者アンケートでの意向を参考にして、年度末に事業提案会議を開催し、次年度の行事を立案しており、子育て講演会の開催や子育て情報資料の設置等を行っています。 子どもに対してもエコクラブ等を通じてアンケートを実施し、「ボーリングがしたい」等の意見を次年度の活動に反映させています。 日常的には、意見箱を設置し、保護者だけでなく子どもからの意見に対しても返答して、それを事務所前に掲示しています。</p> <p>A-1-⑤ 幅広い年齢の児童が交流できる場が日常的に設定されている。 乳幼児から小学生、中高生まで幅広い年齢の児童と一緒に遊んだり交流できるように様々な工夫をされています。特にエコクラブでは異年齢の活動として施設外に出て自然物に触れ、観察する取り組みでは、対外的に表彰を受けるなど成果があり、自然環境の関心にもつながっています。卓球クラブでは中高生が小学生の指導も行い、またお化け屋敷やクリスマス会等では、中高生が企画・運営をし、自分たちの力が発揮できる主体的な活動を実施しています。</p>
<p>特に改善が 望まれる点(※)</p>	<p>III-2-(1) 質の向上に向けた取り組みが組織的に行われている。 第三者評価や京都市児童館活動指針に基づく自己評価を実施し、活動内容の向上に努めていますが、地域連携に関する評価や第三者評価の定期的な受診は出来ていませんでした。また、事業内容や施設の課題を職員間で話し合い、改善策を事業計画にも反映させていましたが、改善策や改善計画の実施状況の評価は出来ていませんでした。</p> <p>III-2-(1) サービス実施の記録が適切に行われている。 サービスの実施状況は「児童館日誌」や「学童クラブ日誌」「乳幼児クラブ日誌」に記録していました。一方で、記録内容が職員によってバラつきが生じないような工夫は出来ていませんでした。 また、情報開示に関する規程を整備し、職員に守秘義務の順守を周知されていましたが、記録の保管・保存・廃棄に関する規程は確認できませんでした。</p> <p>A-8-②児童館の活動内容をわかりやすく知らせ、利用促進につながるように創意ある広報活動が行われている。 「児童館ニュース」は小学校を通し全児童に、「幼児クラブニュース」は右京子ども支援センターを通し右京区民に、乳幼児向けニュースは登録会員に配布され、地域の関係者や関係機関にも配布され、積極的な広報活動をされています。創意ある広報活動という意味においては、自治体や健全育成団体、地域の子育て支援団体等と連携や提携し、情報の相互掲載等、外部との団体とこんな関わりをしているというような外部交流の情報も掲載されると、児童館の位置づけが一層広く深まるように思います。</p>

※それぞれ内容を3点程度に絞って掲載しています。評価項目毎のコメントは「評価結果対比シート」の「自由記述欄」に記載しています。

京都府福祉サービス等第三者評価事業

[様式9-2]

【共通評価基準】 児童館版

評価結果対比シート

受診施設名	京都市西京極児童館
施設種別	児童館
評価機関名	特定非営利活動法人 きょうと福祉ネットワーク「一期一会」
訪問調査日	2015年7月9日

I 福祉サービスの基本方針と組織

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
I-1 理念・基本方針	I-1-1(1) 理念、基本方針が確立されている。	① 理念が明文化されている。	a	a
		② 理念に基づく基本方針が明文化されている。	a	a
	I-1-1(2) 理念、基本方針が周知されている。	① 理念や基本方針が職員に周知されている。	a	a
		② 理念や基本方針が利用者等に周知されている。	b	a
I-2 計画の策定	I-2-1(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	① 中・長期計画が策定されている。	b	a
		② 中・長期計画を踏まえた事業計画が策定されている。	a	a
	I-2-1(2) 計画が適切に策定されている。	① 計画の策定が組織的に行われている。	a	a
		② 計画が職員や利用者等に周知されている。	b	b
I-3 管理者の責任とリーダーシップ	I-3-1(1) 管理者の責任が明確にされている。	① 管理者自らの役割と責任を職員に対して表明している。	b	b
		② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取り組みを行っている。	b	b
	I-3-1(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。	① 質の向上に意欲を持ちその取り組みに指導力を発揮している。	b	a
		② 経営や業務の効率化と改善に向けた取り組みに指導力を発揮している。	b	a

[自由記述欄]

I-1-1(1)	①京都市児童館活動方針及び法人大綱が明文化されており、館内に掲示されていることを確認した。 ②京都市児童館活動方針に基づき法人内の4事業所で年度ごとの基本方針が作成されている。
I-1-1(2)	①京都市児童館活動方針及び法人大綱は全職員に配布されている。法人内の研修において理念をより深く理解するための学習を行っている。 ②法人大綱を管内に掲示し、来館者へ周知するとともに保護者会、小学校などへ配布をしている。
I-2-1(1)	①児童館3カ年計画(27年-29年)を策定し、年間来館者30,000人という目標達成のための重点課題を掲げている。 ②児童館3カ年計画に基づき重点課題を掲げた事業計画が策定されている。
I-2-1(2)	①事業計画は全職員参加のもと作成をしている。途中で振り返りを行うとともに年度末に総括会議を行い、次年度の計画に反映をさせている。 ②乳幼児クラブ登録者や学童クラブ保護者には年間活動計画を配布し説明を行っているが、地域住民をはじめとした外部に対しては発信が不十分である
I-3-1(1)	①管理者自らがクラブ活動を積極的に行うなどリーダーシップを発揮しているが、広報誌等を通じた表明がなされていない。また、職員や利用者から信頼を得ているかどうかを確認する方法を持ち得ていない。 ②京都市児童館学童連盟等が主催する研修に参加するとともに年1階倫理観チェックシートによる振り返り作業を行っている。関係法令のリスト化が不十分である。
I-3-1(2)	①毎月の職員会議等や法人の施設長会において現状分析・検討を行っている。また、管理者自らがクラブ活動を積極的に行うなど質の向上に向けリーダーシップを発揮している。 ②法人施設長会などで経営や業務の効率化に向けて毎月議論をしている。財務面では、監事のアドバイスを受け、相互チェックの仕組みの導入を行った。

II 組織の運営管理

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
II-1 経営状況の把握	II-1-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	① 事業経営をとりまく環境が的確に把握されている。	a	a
		② 経営状況を分析して改善すべき課題を発見する取り組みを行っている。	b	a
		③ 外部監査が実施されている。	a	a
II-2 人材の確保・養成	II-2-(1) 人事管理の体制が整備されている。	① 必要な人材に関する具体的なプランが確立している。	a	b
		② 人事考課が客観的な基準に基づいて行われている。	b	b
	II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。	① 職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みが構築されている。	b	a
		② 福利厚生事業に積極的に取り組んでいる。	a	a
	II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。	① 職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	b	a
		② 個別の職員に対して組織としての教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取り組みが行われている。	b	a
		③ 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。	b	b
	II-2-(4) 実習生の受入れが適切に行われている。	① 実習生の受入れに対する基本的な姿勢を明確にし、体制を整備している。	b	b
② 実習生の育成について積極的な取り組みを行っている。		b	b	
II-3 安全管理	II-3-(1) 利用者の安全を確保するための取り組みが行われている。	① 緊急時(事故、感染症の発生時など)の対応など利用者の安全確保のための体制が整備されている。	b	b
		② 利用者の安全確保のためにリスクを把握し対策を実行している。	b	b
II-4 地域との交流と連携	II-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。	① 利用者と地域とのかかわりを大切にしている。	b	a
		② 事業所が有する機能を地域に還元している。	b	a
		③ ボランティア受入れに対する基本姿勢を明確にし、体制を確立している。	b	b
	II-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。	① 必要な社会資源を明確にしている。	a	a
		② 関係機関等との連携が適切に行われている。	b	a
	II-4-(3) 地域の福祉向上のための取り組みを行っている。	① 地域の福祉ニーズを把握している。	b	a
② 地域の福祉ニーズに基づく事業・活動が行われている。		a	a	

【自由記述欄】

II-1-(1)	①行政や京都市児童館学童連盟、法人施設長会等から情報収集を行っている。日常的には小学校と情報交換を行っている。 ②年度ごとの利用状況を把握し、行事等の参加者の確保に向け様々な工夫を行っている。 ③定期的に税理士のアドバイスを受けている。
II-2-(1)	①京都市児童館学童連盟において研修体系が構築されており、「科目履修表」によって段階的に研修を受けている。しかし、法人の4児童館で採用を行っているが具体的なプランが示されていない。 ②年1回の自己評価をもとに他館の館長が個人面談を行っているが、客観的な基準が設けられていない。
II-2-(2)	①有給取得把握している。職員が相談しやすいように他の館長による個別面談を設けている。共済会の制度利用を紹介している。 ②京都府民間社会福祉施設共済会に加入をしている。また、法人として歓送迎会などの補助の仕組みがある。
II-2-(3)	①京都市児童館学童連盟に置いて研修実施要領が定められている。職員には資格取得を進めている。 ②「科目履修表」によって個別履修が把握されている。法人職員研修もしている。 ③研修に参加した職員が職員会議で伝達研修を行い、資料の回覧はしているが、報告レポートは作成されていない。
II-2-(4)	①保育士の実習受入れ等積極的に行っている。マニュアルを作成し担当者を配置しているが、指導者に対する研修が実施されていない。 ②学校との連携は図っており、様々な体験ができるよう配慮しているが個々の実習生に対する実習計画が作成されていない。

II-3-(1)	<p>①緊急時の対応や体制を明確にしている。年2回の避難訓練行っている。しかし定期的な検討会の実施や事故防止策等の評価・見直しが不十分である。</p> <p>②児童館での事例を検討し再発防止に努めている。また、危険箇所等に気付いた場合、その場で対応しているが組織的・継続的に行われていない。</p>
II-4-(1)	<p>①「京都市児童館活動指針」「法人大綱」「事業報告書」等を掲示し、児童館活動の考え方や事業内容を周知している。近隣小学校や子育てグループ等との連携や地域の手話サークル団体との交流を実施している。学童クラブや乳幼児クラブの保護者交流会を開催している。</p> <p>②乳幼児向けの子育て講演会や幼稚園での遊びの出前活動等を実施している。保護者アンケートを実施して、子育てでの悩みやニーズを調査して、講演会での内容に反映させている。「じどうかんニュース」や「おやこ通信」等の広報誌を、地域の幼稚園や小学校を通じて広報している。子育て相談は随時行っており、必要に応じて専門機関と連携している。</p> <p>③大学生や母親クラブのメンバー、地域のサークル団体関係者等、年間約600名のボランティア受入れているが、ボランティア受入れに関する意義・方針を明文化が出来ていない。</p>
II-4-(2)	<p>①学校や児童相談所、保健所、子育て支援センター等の各種関係団体のリストを作成・掲示し、連携に努めている。連携が必要なケースには、ケースファイルに関係機関一覧を添付したり、職員会議で情報共有を図っている。</p> <p>②課題を持つ児童及び保護者の問題解決のため、必要に応じて児童相談所や子育て支援センター、学校、保育園等と連携を図っている。小学校、保育園、社会福祉協議会等の会議等に定期的に参加し、ネットワーク化に取り組んでいる。</p>
II-4-(3)	<p>①乳幼児保護者に対して、子育てに関する悩みやニーズをアンケートで調査している。来館された保護者からの意見や相談内容でニーズを把握している。社会福祉協議会や学校・保育園・老人クラブ等との会議の中で、地域のニーズを把握している。</p> <p>②乳幼児保護者へのアンケートでの意見を基に、子育て講演会、おもちゃ病院、園芸教室等を実施している。児童館事業を「子どもの育成機能」「子育て支援機能」「地域福祉促進機能」に分類し、それぞれの機能に沿った活動を毎月実施している。</p>

Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果		
			自己評価	第三者評価	
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-1(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。	① 利用者を尊重したサービス提供について共通の理解をもつための取り組みを行っている。	b	a	
		② 利用者のプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備している。	b	b	
	Ⅲ-1-1(2) 利用者満足の向上に努めている。	① 利用者満足の向上に意図した仕組みを整備している。	b	a	
		② 利用者満足の向上に向けた取り組みを行っている。	b	a	
	Ⅲ-1-1(3) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。	① 利用者が相談や意見を述べやすい環境を整備している。	b	a	
		② 苦情解決の仕組みが確立され十分に周知・機能している。	b	b	
		③ 利用者からの意見等に対して迅速に対応している。	b	b	
	Ⅲ-2 サービスの質の確保	Ⅲ-2-1(1) 質の向上に向けた取り組みが組織的に行われている。	① サービス内容について定期的に評価を行う体制を整備している。	b	b
			② 評価の結果に基づき組織として取り組むべき課題を明確にしている。	b	b
③ 課題に対する改善策・改善計画を立て実施している。			b	b	
Ⅲ-2-1(2) 個々のサービスの標準的な実施方法が確立している。		① 個々のサービスについて標準的な実施方法が文書化されサービスが提供されている。	b	a	
		② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	b	a	
Ⅲ-2-1(3) サービス実施の記録が適切に行われている。		① 利用者に関するサービス実施状況の記録が適切に行われている。	b	b	
		② 利用者に関する記録の管理体制が確立している。	b	b	
		③ 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している。	b	a	
Ⅲ-3 サービスの開始・継続		Ⅲ-3-1(1) サービス提供の開始が適切に行われている。	① 利用希望者に対して活動選択に必要な情報を提供している。	b	a
	② サービスの開始にあたり利用者等に説明し同意を得ている。		a	a	
Ⅲ-4 サービス実施計画の策定	Ⅲ-4-1(1) 利用者に対するサービス実施計画が策定されている。	① サービス実施計画を適切に策定している。	b	a	
		② 定期的にサービス実施計画の評価・見直しを行っている。	b	a	

[自由記述欄]

Ⅲ-1-1(1)	①利用者を尊重したサービス提供を実施することが記載された「京都市児童館活動指針」や「児童憲章」「法人大綱」を事務所前に掲示している。職員会議でも常に利用者視点にたった改善策を話し合っている。各職員が人権への配慮や利用者尊重についての内容の外部研修に参加している。 ②個人情報保護マニュアル等を整備し、職員に周知している。トイレの改善を行う等プライバシー保護に関しては配慮しているが、マニュアル整備や研修実施は出来ていない。
Ⅲ-1-1(2)	①毎月の保護者会や、年数回の保護者懇談会等で利用者の意向を聴取する時間を設け把握に努めている。意見箱を設置し、保護者だけでなく子どもからの意見に対しても返答して、事務所に掲示している。 ②保護者アンケートでの意向を参考にして、年度末に事業提案会議を開催し、次年度の行事を立案している。保護者の要望を聞きながら、子育て講演会の開催や子育て情報資料の設置等に気を配っている。エコクラブ等で子どもへのアンケートを実施し、「ポーリングしたい」等の意見を次年度の活動に反映させている。
Ⅲ-1-1(3)	①相談しやすいように、職員側から声掛けして日々の会話を増やすように努めている。17時以降は図書室を相談スペースと位置づけ活用している。学童クラブの保護者には、定期的に保護者懇談会等を開催している。 ②苦情解決の仕組みを館内に掲示し、法人内にも第三者委員を設置している。苦情に対しては丁寧に聞き取り、記録して利用者へ説明や改善策等の提案を行っている。しかし、苦情内容の公表等は出来ていない。 ③利用者からの意見や提案には、職員間で共有してマニュアルに沿って対応している。しかし、マニュアルの定期的な見直しは出来ていない。
Ⅲ-2-1(1)	①事業所内で担当を決め、第三者評価や京都市児童館活動指針に基づく自己評価を実施し、活動内容の向上に努めている。地域連携に関する評価や第三者評価の定期的な受診は出来ていない。 ②自己評価を実施し、事業全体の課題を職員間で共有しているが、課題の文書化は出来ていない。 ③事業内容や施設の課題を職員間で話し合い、改善策を事業計画にも反映させている。しかし、改善策や改善計画の実施状況の評価は出来ていない。
Ⅲ-2-1(2)	①標準的な方法を職員間で話し合い、職員業務マニュアルを作成し、担当ごとやクラブ活動ごとに手順を決めて実施している。 ②事業内容等は年2回総括し、必要な見直しを行っている。標準的なサービス方法については、職員の意見も聞きながら定期的にマニュアル等の改訂を行っている。

Ⅲ-2-(3)	<p>①サービスの実施状況は「児童館日誌」や「学童クラブ日誌」「乳幼児クラブ日誌」に記録している。障害のある児童に対しては、担当者日誌を記載している。記録内容が職員によってバラつきが生じないような工夫は出来ていない。</p> <p>②情報開示に関する規程を整備し、職員に守秘義務の順守を周知しているが、記録の保管・保存・廃棄に関する規程は確認できなかった。</p> <p>③利用者の状況は、日誌や日々のミーティング等で職員全体で共有されている。月2回の職員会議の中で、個別のケースについても話し合っている。</p>
Ⅲ-3-(1)	<p>①写真等も使用したホームページやパンフレット等でわかりやすく情報提供している。「児童館ニュース」「おやこ通信」を右京区子ども支援センターに届けたり、中学生対象の事業案内は、中学校にポスター掲示を依頼している。クラブ活動等の見学や体験を随時行っている。</p> <p>②利用開始にあたり、活動内容や利用方法について、書面で説明している。毎年、小学校新1年生向けの案内を作成したり、入学前の保護者説明会で学童クラブの案内を配布する等している。</p>
Ⅲ-4-(1)	<p>①乳幼児クラブや児童館クラブ等、活動ごとに担当者を決め、担当者が作成した活動計画や行事計画を職員会議で協議している。</p> <p>②活動計画書を作成し、全職員で年2回は見直している。急な計画変更は職員会議で合議し、対処している。</p>

京都府福祉サービス等第三者評価事業

[様式9-2]

【付加基準】 評価結果対比シート

児童館

受診施設名	京都市西京極児童館
施設種別	児童館
評価機関名	特定非営利活動法人 きょうと福祉ネットワーク「一期一会」
訪問調査日	2015年7月9日

【付加基準】児童館版 評価結果対比シート

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
A 児童館等の活動に関する事項 (小型児童館・児童センター用付加基準)	A-1 遊びの環境整備	① 遊ぶ際に守るべき事項(きまり)が、利用者に理解できるように決められている	a	a
		② 乳幼児から中高生までの児童すべてが日常的に気軽に利用できる環境がある	a	a
		③ 利用者が自発的かつ創造的に活動できるように環境を整備している	a	a
		④ かつろいだり、休憩したりするふれあいスペースを作っている	a	a
		⑤ 幅広い年齢の児童が交流できる場が日常的に設定されている	a	a

【自由記述欄】

A-1-①	小学生には乳幼児のおもちゃを使わないことや整理整頓について、どこに何を置くか写真を使っでの表示をし、中学生には専用スペースの使用方法やおやつに関するルール等わかりやすく表示している。ルールの見直しも職員会議で話し合っている。
A-1-②	乳幼児から中高生まで、ほぼ毎日の利用がある。利用者（子ども、大人を問わず）に安心をもってもらうため、必ず職員が話しかけ親しみやすい雰囲気を作っている。
A-1-③	遊具は自由に使え、危険がないかのチェックも毎日している。また遊びを見守る体制と安全配慮について職員会議等で意見交換及び確認を合っている。
A-1-④	限られたスペースを工夫し、学童は図書室で本を読んだりトランプをしてかつろいだっている。中高生は夕方5時以降、専用スペースを活用している。
A-1-⑤	幅広い年齢層が利用する中で、中高生が企画運営等発揮し、学童児童と共に楽しむ行事がある。特にエコクラブや卓球クラブでは中高生が小学生の指導したり、お互い協力あっている。

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
A 児童館等の活動に関する事項 (小型児童館・児童センター用付加基準)	A-2 乳幼児と保護者への対応	① 乳幼児と保護者が日常的に利用している	a	a
		② 乳幼児活動が年間を通じて実施されており、その内容が参加者のニーズに基づいたものになっている	b	a
		③ 保護者同士が交流する機会が設けられており、保護者が企画や運営に参加している	a	a

【自由記述欄】

A-2-①	乳児の「さくらんぼクラブ」や幼児の「親子の広場」にお弁当持参で利用されている。児童館ニュースや右京子どもセンターのニュースで活動内容を広報している。
A-2-②	乳児クラブは第1・第3月曜日に、幼児クラブは毎週火曜日に実施している。アンケートより育児に関する講演会を実施するなど利用者のニーズを引き出している。
A-2-③	幼児クラブでは「アート」「クッキング」「お楽しみクラブ」の任意組織によるクラブで、利用者と職員が共同して活動している。

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
A 児童館等の活動に関する事項 (小型児童館・児童センター用付加基準)	A-3 小学生への対応(核となる児童館活動)	① 職員が個々の児童の状態や心理を考慮して適切に援助している	a	a
		② 職員が個別・集団援助技術を念頭において、個人や集団の成長に向けて働きかけている	b	a
		③ 障害の有無や国籍の違いを超えて、児童と一緒に遊びお互いに理解を深める取り組みが行われている	b	a
		④ 行事やクラブ活動が、日常活動とのバランスや児童の自主性・主体性を育てることを意識して企画されている	a	a

【自由記述欄】

A-3-①	職員は個々の児童と適切な対応を心がけている。新しい児童には全職員が声をかけるようにしている。
A-3-②	職員はスキルアップのために「京都市児童館学童連盟」の研修を受けている。子ども間でトラブルが起こったときは、すぐに対応するとともに職員間で情報を共有し、記録にも残している。
A-3-③	障がいのある児童には、介助者を配置している。またその1対1ではなく他の児童と関われる工夫をしている。職員も介助者任せにせず情報の共有を図っている。現在、国籍の異なる児童はいないが、円滑な利用ができるように案内や説明ができる仕組みはある。

A-3-④	「卓球クラブ」「手話クラブ」「あそびクラブ」「料理クラブ」「エコクラブ」があり、館内のみならず、館外の団体とも交流がある。「お楽しみ会」「おたけ屋敷」「クリスマス会」などでは、高学年から中学生が実行委員会をつくり企画、運営している。			
評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
A 児童館等の活動に関する事項 (小型児童館・児童センター用付加基準)	A-4 中学生への対応	① 日常的に中学生の利用がある	a	a
		② 中学生が主体性や社会性を養えるような活動を継続して実施している	b	a
	A-5 利用者からの相談への対応	① 利用者からの相談への対応が自然な形で行われている	a	a
		② 虐待を受けた児童や不登校児への支援体制が整っている	b	a
	A-6 障害児への対応	① 障害のある児童の利用に対する支援策が整っている	b	a
[自由記述欄]				
A-4-①	5時以降に中学生の専用スペースを確保している。中学校の卓球クラブと連携して取り組みを行っている。児童館ニュースに中学生企画のお知らせを掲載している。			
A-4-②	キャンプやおたけ屋敷では、中学生がジュニアリーダーとして企画、運営して参加している。地域には絵本の貸し出しや職場体験を受け入れている。			
A-5-①	相談や苦情を受けた職員は記録とともに他の職員に伝え情報共有し対応に活かしている。学童クラブでは個人面談を行い相談活動を行っている。			
A-5-②	虐待の事例はないが、体制として児童相談所・小学校・支援センター等の関係機関との連携が確立されている。			
A-6-①	障がいのある児童を7名受け入れており、児童感学童連盟の介助者制度を利用している。職員は「障がいのある児童の統合育成Ⅰ」「障がいのある児童の統合育成Ⅱ」を全員が交代で受講し、スキルアップを図っている。			
評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
A 児童館等の活動に関する事項 (小型児童館・児童センター用付加基準)	A-7 地域の子育て環境づくり	① 住民による子育て支援活動や健全育成活動を促進している	b	b
		② 地域社会で児童が安全に過ごせるような取り組みをしている	b	b
	A-8 広報活動	① 広報活動が適切に行われている	b	b
		② 児童館の活動内容をわかりやすく知らせ、利用促進につながるように創意ある広報活動が行われている	b	b
[自由記述欄]				
A-7-①	学区社会福祉協議会主催の「春の昼食会」「西京極福祉大会」など高齢者向けの取組みに参加し歌やダンスを披露したり、人形劇クラブや手話クラブで公演や地域活動をしているが、児童館に運営委員会は組織されていない。			
A-7-②	4月には学童クラブのお帰り班に職員が同行し、帰り道の危険な個所をチェックしている。また子ども達が遊ぶ西大丸公園の危険個所のチェックや地域の見回りを職員がしている。地域の「見守り隊」と協力体制にはなっていない。			
A-8-①	児童館ニュースは小学校を通して全児童に、乳幼児向けニュースは登録会員に配布している。京都市児童館学童連盟のホームページを活用し、行事の広報を行っている。地域の子育て支援団体や健全育成団体と提携や連携し、情報の相互掲載までは至っていない。			
A-8-②	児童館ニュースの表には近日の行事、裏には先月の行事の様子を掲載し、児童の活動内容を幅広く理解してもらうように工夫している。またコラム欄を使い職員の思いを利用者や地域に伝えているが、関連する機関・団体の声が反映されるまではできていない。			